

様式(細則 5-2)

平成 29 年 11 月 27 日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 西川 真午 

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため(視察・研修)を(実施・受講)したので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成 29 年 11 月 24 日 (金) 7 : 00 から  
平成 29 年 11 月 24 日 (金) 23 : 00 まで
2. 視察・研修内容 第 22 回 北前船寄港地フォーラム in 鳥取
3. 視察先又は研修先 鳥取県鳥取市
4. 調査経費 7, 530 円  
(経費内訳 有料道路代 2,780 円、ガソリン代 4,750 円)

### 5. 調査研究活動の概要

現在、日本遺産の北前船寄港地として外ノ浦の追加認定の申請準備が行われている。認定に至れば浜田市としては観光資源、文化資源として活かすことができるものである。この度、浜田市と同時に追加認定の申請をしている鳥取市で上記のフォーラムが開催され、今後の政策立案の調査研究のため参加した。なお、外ノ浦町在住で廻船問屋の子孫である地元歴史家の楫ヶ瀬孝氏と同行した。フォーラムの内容については別紙に添付する。



## 5. 所 感

日本遺産とは文化財の保護を目的とするものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としているものである。衆議院議員の浮島智子氏によると、2020年までに100件の認定を目指しているとのことである（現在は約50件）。北前船寄港地については既に『荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～』として北海道から北陸までの11の港が認定されており、外ノ浦が含まれる今回の追加認定には27の港がエントリーしているということであった。追加認定についてはANA総研を通じて12月に正式な申請がなされるということで、決定時期については明らかでないが、外ノ浦が認定されると浜田市の観光、文化の振興に寄与することは間違いないため、今後は認定に向けて市役所だけでなく、議会、地域住民が協力して取り組む必要があると思う。また、フォーラムではインバウンドへの取組について議論がなされ、鉄道会社、航空会社、旅行会社等と地域行政が連携することが必要だと感じた。今後も本件についての調査研究を継続して行う必要がある。